

第 27 回九州山口ハイパーサーミア学会

集学的治療により CR を得られた大腸癌の一例

社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 臨床工学科 垣下ひかる

共同演者

臨床工学科 川崎玲、樋口優子、大田真

放射線科 森岡文明、鞆田義士、成定宏之、今田肇

症例は 60 代男性。2009 年 4 月に直腸癌によるイレウスの診断。5 月ハルトマン手術を施行し術後良好であった為、外来にて術後化学療法で 5FU/LV を開始。10 月、膀胱への再発腫瘍が判明し、温熱化学放射線治療を開始した。放射線治療は 60 Gy/30fr、化学療法は CPT-11 を biweekly で施行したが副作用が強く、6 コースで終了し TS-1 の内服へ変更。同時に温熱治療を平均出力 837.5W、50 分で計 12 回施行。膀胱に再発が確認され、治療開始半年でマーカー正常化、CT 上でも CR と評価され現在も継続中。

進行大腸癌であり血流の悪い腫瘍と予測されたが、CR が得られたのは放射線化学治療に併用した温熱療法による増感の貢献が大きいと考えられる。また CR と評価された後も TS-1 内服のみで再発なく経過しており、強力な局所集学的治療の有用性が示唆された。